

2017年度からのアンケート結果に基づく授業の評価

幼児教育講座・深田昭三

1. 分析対象とした授業

本報告では、2回生科目の「言葉の指導法」を分析対象として取り上げた。この科目は、幼稚園教育要領における領域「言葉」の指導法を取り扱う科目であり、幼稚園1種免必修・2種免選択の科目であり、幼年教育専修及び保育士コースの必修科目でもある。

昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症の関係で、比較的受講生の多い本授業は、基本的に非同期型の遠隔授業で行うこととした。全15回の授業のうち11回は、授業動画を作成し、moodleを經由してYouTubeで視聴してもらうこととした。

ただし、Show & Tell（家からものを持ってきてそれをういて短いスピーチを行う、1回）は対面授業で、絵本読みの実技（3回）は遠隔（zoom）と対面のハイブリッドで行った。

受講生は36人であり、内訳は2回生26人、3回生7人、4回生3人であった。また、幼年教育サブコース5人、小学校サブコース27人、特別支援教育コース4人であった。過去21年間の受講生の平均が29.2人であるため、例年よりやや多い受講生数であったと言える。

2. 授業動画の作成と提示

昨年に引き続き、OBS（Open Broadcaster Software）を用いて、パワーポイントの画像と、授業者の画像をリアルタイムで合成し、動画像の録画を行った。

その後、作成した動画をAdobe Premiere Elementsに取り込み、不要部分のカットなどの処理を行った後、YouTubeに限定公開でアップロードした。

YouTubeへのアップロード後、字幕が自動生成されたら、字幕ファイルをダウンロードした。YouTubeの字幕編集ツールを用いながら字幕を修正し、編集済みの字幕ファイルをアップロードすることで字幕対応を行った。

授業動画は、次のような構成とした。

1. イントロダクション
2. 授業の感想へのコメント（毎回3件）
3. 授業内容
 - ① 今日の授業内容の全体構成
 - ② 授業本体
 - ③ 授業内容の振り返り

授業動画は時折止めて、授業プリントに穴埋めをしながら聞くスタイルを採用したため、動画自体の長さは、おおむね1時間程度とした。これで、対面授業のときと同じ内容をカバーすることができた。

授業動画の平均視聴回数は、74.6回であり、受講生が36人であることから、一人あたり平均2.1回視聴していたことが分かる。



図2. 授業動画の例
(授業の感想へのコメント)

3. moodleでの課題提示

本授業では、moodleを活用して授業を行った。moodleの1コマのセクションは、以下の内容で構成した。

1. 授業資料（重要箇所は空白にしてあり、動画のスライドを見て穴を埋める）
2. YouTube動画へのリンク
3. 課題（授業への質問や自分で調べたことを記入）

遠隔授業時は、各回の課題を提出することで出席と見なした。出席率の平均は、94%であり、高い出席率と言えよう。

4. 授業評価結果

2017年度から2021年度まで、ほぼ同じアンケートをしていたため、過去の授業評価結果($n=138$)と今年度の授業評価結果($n=24$)とを比較した。Mann-WhitneyのU検定を行ったところ、「あなたのこの授業への出席状況はどのくらいですか。」(出席状況)、「授業の予習・復習は平均して、毎回どのくらいしましたか。」(予習・復習)、「授業の進度および毎回の授業における時間配分は適切だった。」

(進度・時間配分)の3つの質問への回答に5%水準で有意差が見られ、いずれも改善方向への変化が見られた(表1~3)。

表1. 出席状況についての年度間比較

	2017-2020 年度	2021年度
全部出席	42.5%	66.7%
1回欠席	38.8%	23.8%
2回欠席	9.0%	4.8%
3-4回欠席	9.7%	4.8%
5回以上欠席	0.0%	0.0%
合計	100.0%	100.0%

表2. 予習・復習についての年度間比較

	2017-2020 年度	2021年度
2時間以上	1.4%	0.0%
1時間以上	8.7%	16.7%
1時間未満	32.6%	45.8%
30分程度	29.7%	33.3%
30分未満	27.5%	4.2%
合計	100.0%	100.0%

表3. 進度・時間配分についての年度間比較

	2017-2020 年度	2021年度
強く思う	42.0%	58.3%
まあ思う	42.0%	41.7%
どちらとも言えない	13.0%	0.0%
あまりそう思わない	2.9%	0.0%
全くそう思わない	0.0%	0.0%
合計	100.0%	100.0%

その他の項目でも、表4に示すとおり例年通りのとても高い評価を得た。自由記述でも「幅広い知識を得ることができ、毎回の受講生のコメントからも学ぶことが多く、充実した授業でした。」や、「先生の丁寧な解説と、

コメントに対しての返しをされていてわかりやすかったです。」などの好意的な評価が多かったものの、授業の公開タイミングの遅れを指摘する声もあった。

表4. アンケート15項目の平均での比較

	2017-2020 年度	2021年度
強く思う	64.2%	64.2%
まあ思う	31.7%	31.1%
どちらとも言えない	3.5%	4.4%
あまりそう思わない	0.6%	0.3%
全くそう思わない	0.0%	0.0%
合計	100.0%	100.0%

注：取り上げた15項目とは、表5の13項目に、授業満足度、お勧め度を加えたもの。

4. 授業満足度の規定要因

2017年度から2021年度までのアンケートへの回答($n=162$)をもとに、授業満足度を目的変数とし、アンケートの他の項目を説明変数とする重回帰分析を行った(表5)。なお、多重共線性は認められていない。

分析の結果、「授業内容や説明の仕方は分かりやすかった。」(わかりやすさ)、「教科書・プリント、黒板・各種の教育メディア(スライド、ビデオ、OHP、YouTubeなど)の使い方は効果的だった。」(教育手段)、「教員の授業に対する意欲・熱意を感じた。」(教員の意欲・熱意)の3項目が、授業満足度に対して、有意な影響を与えていることが分かった。

つまり、授業が分かりやすと感じている学生、教育手段が優れていると感じている学生、教員の熱意を高く評価している学生は、授業満足度が高いということになる。

表5. 満足度を目的変数としたときの重回帰分析結果

説明変数	標準化 係数(β)	t 値
わかりやすさ	0.44	5.61 ***
進度・時間配分	0.01	0.14
関心・興味	0.04	0.48
有用性	0.06	0.77
教育手段	0.19	2.51 *
コミュニケーション	0.02	0.24
教員の意欲・熱意	0.20	2.79 **
パワーポイント	-0.01	-0.12
ビデオ	-0.06	-0.83
穴あきプリント	-0.12	-1.74
感想文	0.09	1.10
Show & Tell	-0.03	-0.32
絵本読み	0.19	2.29

注：*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$